

安部公房 『デンドロカカリヤ』論 ー引用の役割を中心にー

安部 ひかり
(文17-0026 国語国文学専修 国文コース)

1. コモン君に関する引用
2. 時代背景とH植物園長に関する引用
3. 安部公房をつなぐ引用ーデンドロカカリヤー
4. 安部公房をつなぐ引用ー『ドゥイノの悲歌』ー
5. 安部公房と「デンドロカカリヤ」

1. コモン君に関する引用

○名前の引用

「common」(=一般的)→コモン君は一般的な人物

認識の変化
=思想の表れ

○ダンテの神曲・ギリシャ神話の引用

ダンテの神曲→ギリシャ神話を経て、コモン君の植物化に対する認識が変化

・ギリシャ神話
H植物園

「非科学的」
「古い神話」
として否定

どちらも「古い」物語

これらに固執したコモン君は、
「古い価値観に囚われる人物」
といえる

・ダンテの神曲
→ギリシャ神話の要素が多い
コモン君が強く影響を受けた「地獄編」にも

コモン君とは、古い価値観に固執する一般的な人物

2. 時代背景とH植物園長に関する引用

○作中の「緑化週間」と当時の「都市緑化運動」

「都市緑化運動」の指示書(1948)
⇒「パンフポスター」
「標語作成の指示」あり

作中に登場する
「緑化週間のポスター」
「広告塔」とリンク

作品の時代背景=「都市緑化運動」が行われた1948年頃

○植物園長の正体

特徴
一致

<1948年頃日本の特徴>

- ・GHQによる統制
- ・アメリカの「文化」と「科学」で戦後復興

<H植物園長の特徴>

- ・「科学的に考えて」
- ・ティミリヤーゼフ『植物の生活』
⇒科学的には植物も人間も同じだと示す書籍

⇒H植物園長=1948年頃の日本の象徴

H植物園長はコモン君を「非科学的」と否定=当時の日本からの否定
⇒当時の日本にとって「非科学的」な「古い」価値観に固執するコモン君は不要

「H植物園長がコモン君を否定する」という構図に当時の風潮を表した

3. 安部公房をつなぐ引用 ーデンドロカカリヤー

○デンドロカカリヤの必然性

<デンドロカカリヤの特徴>

- ・小笠原諸島に生息する大木植物
- ・空中湿度が高い礫地に生息

特徴
一致

<コモン君の変身環境>

- 1回目...「路は黒々と湿っていた」
- 2回目...大雨の後晴れ
- 3回目...「ぼろぼろのスレートや瓦」
⇒湿度が高く礫地に近い環境

⇒安部公房は意図的にデンドロカカリヤを設定

○デンドロカカリヤとコモン君

<小笠原諸島の背景>

1944年、住民7千人が内地へ強制疎開
1946年、敗戦後も帰島許可が下りず、住民は内地に残る
⇒強制疎開により帰島できない住民

○デンドロカカリヤと安部公房

<安部公房の背景>

1946年、満洲で終戦を迎え、引き揚げ船にて日本に帰国
⇒敗戦により日本に帰還した引揚者

境遇の類似

コモン君の変身後=デンドロカカリヤ⇒コモン君=「小笠原諸島の住民」

安部は、デンドロカカリヤという植物に島民の背景を含ませることで、戦後間もない頃の安部公房とコモン君の類似性を主張

4. 安部公房をつなぐ引用 ー『ドゥイノの悲歌』ー

○安部公房とリルケ

「戦時中、世界を拒み拒まれているような怖れの中で、リルケの世界は素晴らしい冬眠の巣のように思われる」→辛い現実からの逃避

感覚の類似

○『ドゥイノの悲歌』の引用

コモン君は「すべてが自分の義務までも拒んでいるような」感覚の中3回目の植物化

- ・植物化とは「現在を追い出すこと」(=現実逃避)
コモン君は植物化することで、現実から逃避した
安部公房はリルケに耽ること現実から逃避した

同じ手段(現実逃避)を選択

- ・コモン君は無意識的に安部公房の逃避手段であったリルケの詩を想い浮かべる

類似した感覚の中で同じ手段を選択し、無意識的にリルケの詩を想い浮かべた

戦後間もない頃の安部公房の思想、考え方がコモン君に反映されている

5. 安部公房と「デンドロカカリヤ」

○なぜ戦後の安部公房とコモン君の類似性を主張するのか

<当時の安部公房>

前作⇒実存哲学的語彙を駆使したリルケ的な文体
本作⇒反リアリズムの文体に変化

一方で『ドゥイノの悲歌』の引用など、リルケ的要素あり
⇒「リルケ的なものとそうでないもの」の混合

本作執筆時の安部は戦時中に得たリルケ的思想から抜け出そうとしていた

- ・『デンドロカカリヤ』発表前の詩:実存主義に傾倒していた自身の文体への決別宣言
 - ・「夜の会」「世紀の会」などの戦後アヴァンギャルド芸術運動への参加
- ⇒以前の思想、文体から離脱し、新たな文体獲得へと歩みを進めていた

コモン君と戦後間もない頃の自身を類似させることで、
「H植物園長がコモン君を否定する」という構図に過去の文体からの決別意思も込めたのではないかと